

# 職務経歴書

2025年12月30日現在  
氏名 荷川取一隆

## ■職務要約

2023年よりWebエンジニアとして、バックエンドを中心にプロダクト開発に従事。直近では採用プラットフォームにおける求人機能の新規リリースに向け、求人・労働時間制度のドメイン分析～DB設計、法令・他媒体調査、意思決定の可視化（Notion/FigJam）を推進。エラーハンドリング統一基盤やPR分割とレビュー設計（Devin活用）など、チームの開発体験改善にも継続的に取り組みました。

## ■職務経歴

株式会社EISHIN (2023年01月～現在)	
事業内容：採用支援事業・人材紹介事業・クリエイティブ制作事業・SES事業 資本金：2,500,000円（2025年1月時点） 従業員数：100人 上場：非上場	正社員
プロダクト開発（2025年04月～現職）／フルスタック開発	規模
<b>【プロジェクト概要】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>- 採用プラットフォームの開発</li><li>- 求人機能のリリース</li></ul>	
<b>【開発環境】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>- 言語・FW: JavaScript / Next.js / Node.js / Hono / TypeScript</li><li>- DB/ORM: PostgreSQL / Supabase / Drizzle</li></ul>	
<b>【担当フェーズ】</b> <p>主にバックエンドで、求人・労働時間制度のドメイン分析～DB設計、法令・他媒体調査。Notion/FigJamで論点・選択肢・判断軸を可視化。エラーハンドリング統一基盤、PR分割とレビュー設計（Devin活用）も推進。</p>	
<b>【主要な実績】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>- エラーハンドリング統一による開発体験向上<ul style="list-style-type: none"><li>- 複数技術を検証し、実用性を優先して共通基盤化</li></ul></li><li>- 労働時間制度DB設計の意思決定支援<ul style="list-style-type: none"><li>- 法的要件の整理+関係者連携で設計停滞を解消し、遅延リスクを低減</li></ul></li><li>- DB設計の不確実論点をオープン化<ul style="list-style-type: none"><li>- 付箋で可視化し、議論で方針をシンプルに収束</li></ul></li><li>- 求人プロパティの整理と構造化（情報設計）<ul style="list-style-type: none"><li>- FigJamで差分を可視化し、「仕事内容／労働条件／募集条件」に整理</li></ul></li><li>- 勤務体系の再整理による仕様確定<ul style="list-style-type: none"><li>- 労基法・他媒体調査で前提を固め、用語定義と境界条件を明確化</li></ul></li><li>- DB設計の包括的レビューで品質向上と知識共有<ul style="list-style-type: none"><li>- 参加しやすい場を設計し、学習文化を醸成</li></ul></li></ul>	全8名 メンバー
<b>【実績・取り組み】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>- 導入後も顧客へのヒアリングを継続し、随時システムを改善。また、改修を想定し、ソースコードを書き換えやすいうように設計。</li></ul>	
<b>【プロジェクト詳細】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ エラーハンドリングの統一化による開発体験向上</li></ul>	
<b>背景</b> <ul style="list-style-type: none"><li>- アプリごとにエラー処理が異なり、覚えるコストが高い状態</li><li>- 一貫性のない実装がメンテナンス性を下げ、新規参入障壁にもなっていた</li></ul>	
<b>対応</b> <ul style="list-style-type: none"><li>- tRPC / Hono など複数アプローチを検証し、型保証の理想とコストを比較</li></ul>	

- 「完璧さ」より「一貫性」を優先し、迷わず実装できる共通基盤の方針転換
- 実施内容
  - ステータスコードとメッセージの統一
  - カスタム例外クラスの整理（例外設計の一貫性）
  - 影響範囲を考慮してPRを目的別に分割（GET/POST系、data-access層、BFF層など）
  - Devin活用で軽微な実装を効率化し、設計とレビューに時間を集中
  - 差分を最小化してレビューの認知負荷を軽減
- 補足
  - スライド（SpeakerDeck）：<https://speakerdeck.com/nikawa2161/error-marp>

## 結果

- エラー処理の一貫性を実現し、チームが判断に迷わず開発できる状態に
- 影響範囲の大きい共通基盤を率先して担い、他メンバーがユーザー価値開発へ注力可能に
- PR分割とDevin活用で、実装効率とレビュー品質を両立
- 全PRがスプリント内にマージされ、スプリントゴールを達成
- 統一ルールが標準として定着し、新規開発でも一貫性が保たれている

## ■ 労働時間制度DB設計の停滞解消（意思決定支援）

### 背景

- 休憩時間の表記方法を巡って議論が長期化し、後続実装の遅延リスクが高まっていた
- 制度ごとに法的取り扱いが異なり、チーム内で収束しづらい状況

### 対応

- 停滞要因を「材料不足」「判断軸の曖昧さ」と分解して対処
- 材料づくり（情報の構造化）
  - 制度ごとの法的要件差分を調査しドキュメント化
  - 表記に関する選択肢を洗い出し、メリデメを比較
  - 「どの制度で入力が必要か／不要な場合の妥当表記」など論点を明確化
- 意思決定プロセスの設計
  - 議論を前進させるためハドルを提案・設定
  - POやメンバーを巻き込み、法的要件とDB設計の両面で検討
  - 不明点は社労士へ確認し、専門家知見を適切なタイミングで取り込む方針を提案
- 設計方針
  - UI都合ではなく「データとしての本質的な意味」を重視して提案
  - 完璧な情報待ちではなく、現時点の整理をドキュメント化して前進を優先

## 結果

- 制度ごとの法的要件とDB設計の整合を確認し、納得感のある意思決定を実現
- 設計停滞を解消し、後続のマイグレーション実装へスムーズに移行
- 議論長期化のリスクを回避し、プロジェクト遅延を抑制
- 意思決定プロセスをドキュメント化し、判断基準としてチームに蓄積
- 「不明点は専門家に確認する」判断パターンが共有され、今後にも活用される運用に

## ■ 求人プロパティの整理と構造化（情報設計）

### 背景

- 媒体ごとに項目名/粒度/意味が揺れ、「何を標準にするか」が定まらず議論が発散しやすい
- 求職者が比較しやすい形へ落とす必要があるが、進め方が手探り

### 対応

- まず可視化して「同じ材料を見ながら」議論できる状態を作る方針に
- 実施内容
  - FigJamで媒体ごとのプロパティを列挙し、差分を可視化

- 判断軸を「求職者に必要か」に固定し、「価値」で仕分け
- 求職者の理解順序に沿ってグルーピングし、カテゴリ構造へ落とし込み

## 結果

- 「仕事内容／労働条件／募集条件」など、理解しやすい構造に整理
- 設計の前提がチームで共有され、以降の検討・実装で迷いにくい土台に
- 「求職者にとって必要か」という判断軸が共有され、ユーザーファーストな設計が継続しやすくなった

SES : ヘルスケアサービスのシステム開発 (2023年06月～2025年03月) / フルスタック開発

規模

### 【プロジェクト詳細】

- ヘルスケアサービスの開発
  - 調剤薬局予約・お薬手帳アプリ
  - お薬の通販・オンライン診療

### 【開発環境】

- 言語・FW: JavaScript / Next.js / Node.js / Hono / TypeScript / PHP / Laravel
- DB/ORM: MySQL / TypeORM

### 【担当フェーズ】

- フロントエンドおよびバックエンド開発
  - 設計・実装・テスト
- PMと連携した開発工数の見積もりおよびスケジュール管理

### 【主要な実績】

- フロントエンドの責務分離をルール化し、開発体制の標準化を推進
  - クライアントとの認識すり合わせを実施
  - 既存コードベースへ影響を与えない形で段階的に整理し、可読性/保守性を向上
- 高負荷処理の最適化により、システム全体のパフォーマンス向上を実現
  - メモリ使用量の最適化、マイクロサービス間通信回数削減などでボトルネックを解消
  - レスポンス速度向上、安定運用、スケーラビリティ向上につなげた
- 工数見積・スケジュール管理とリスク対策により、品質と納期の両立を支援
  - PMと密に連携し、課題解決とスケジュール調整を実施

全20名  
メンバー

### 【実績・取り組み】

- 新機能の開発および既存システムの保守・改善
  - フロントエンドアーキテクチャが未定義で統一性が欠ける状況に対し、各ファイルの責務をルール化
  - クライアントと認識すり合わせ、標準化を推進
  - 現状のコードベースに影響を与えない形で段階的に整理し、可読性/保守性を向上
- パフォーマンス最適化の取り組み
  - 高負荷処理の最適化（メモリ使用量の最適化、マイクロサービス間通信回数削減）でボトルネックを解消
    - レスポンス速度向上、安定運用、スケーラビリティ向上を実現
- 開発スケジュール管理とリスクマネジメント
  - 工数見積とスケジュール管理を担当し、チーム進捗を適切にコントロール
  - リリースに向けたリスク対策でトラブルを未然に防止
  - PMと連携し、課題解決・スケジュール調整を行い、品質と納期の両立を図った

Web制作業務 (2023年01月～2023年05月)

規模

### 【プロジェクト概要】

- 新規Webサイトの作成
- 既存Webサイトの改修・運用保守
- 採用サイトのリニューアル

全4名  
メンバー

### 【開発環境】

- 言語・FW: HTML / CSS / JavaScript / WordPress

**【担当フェーズ】**

- フロントエンド開発
  - コーディング (HTML/CSS/JavaScript)
  - 既存サイト改修・運用保守
  - WordPressテーマ作成・カスタマイズ
  - 各種ブラウザ対応／レスポンシブ対応
  - アニメーション実装
  - パフォーマンス最適化 (Lazy Load、キャッシュ設定、画像圧縮)

**【主要な実績】**

- 採用サイトのリニューアルに対応
  - <https://recruit.ei-shin.com/>
- WordPressのオリジナルテーマ作成・カスタマイズを担当し、要件に合わせたサイト構築を実施
- レスポンシブ対応／ブラウザ対応／アニメーション実装を行い、表示品質を担保
- パフォーマンス最適化 (Lazy Load、キャッシュ、画像圧縮) を実施

**【実績・取り組み】**

- システム保守の効率化のため、保守性の向上に努めました。積極的にシステムのアップデートや改善、細かいエラーのデバッグと解決に取り組むことで、保守担当エンジニアの業務改善に貢献。

株式会社Brave (2021年08月～2022年12月)

事業内容：SES事業

資本金：5,000,000円

正社員

従業員数：10人 上場：非上場

Web制作業務 (2022年04月～2022年12月)

規模

**【プロジェクト概要】**

- 新規Webサイトの作成

**【開発環境】**

- 言語・FW: HTML / CSS / JavaScript / WordPress

**【担当フェーズ】**

- Web制作 (要件定義～デザイン調整～コーディング～運用)
- 外部カリキュラムの内製化

全1名  
メンバー

**【実績・取り組み】**

- 外部カリキュラムの課題 (フィードバック遅延・不要内容) 解消のため、内製化を推進
- コーポレートサイトやLPの制作・運用
  - 要件定義からデザイン調整、コーディング、運用まで一貫して対応し、SEO対策にも貢献

営業 (2021年08月～2022年03月)

規模

**【担当業務】**

- 美容部門のキャッチセールス

**【実績・取り組み】**

- キャッチセールス (美容部門) 医療脱毛のプロモーション活動を担当。
  - 通行人へのヒアリングを通じてニーズを把握し、症例モニターの予約獲得を実施。
    - ターゲット層の行動パターンを分析し、効果的なアプローチを行うことで、コンバージョン率向上に貢献しました。

全5名  
メンバー

## 医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院（2019年04月～2021年03月）

事業内容：医療・介護事業 資本金：186,000,000円 従業員数：700人 上場：非上場 リハビリ業務（2023年01月～2023年05月）	正社員 規模
<p><b>【担当業務】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- リハビリ患者の担当・支援</li> <li>- 退院計画の策定および自宅環境の調整支援</li> </ul> <p><b>【実績・取り組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- リハビリ患者の担当・支援 急性期病院から転院した患者のリハビリを担当し、個々に適したメニューを立案。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 3～6ヶ月間のマンツーマンサポートを行い、患者の回復促進。</li> <li>- 退院後の生活を見据え、自宅環境の調整や地域の関連機関との連携し、スムーズな社会復帰を支援。</li> </ul> </li> <li>- 経験の浅さによる知識不足の課題に対し、症例発表を定期的に行い、フィードバックを得ることで知識と実践力を向上。</li> <li>- オンライン学習や勉強会を活用し、専門知識を強化や患者の身体評価の結果をレジュメにまとめ、知見を蓄積して業務に活かしました。</li> </ul>	全30名 メンバー

## ■言語経験・スキル

種類		使用期間
言語/FW	JavaScript	3年0ヶ月
	PHP	2年2ヶ月
	Laravel	1年8ヶ月
	TypeScript	1年9ヶ月
	Next.js	1年9ヶ月
	NestJS	1年0ヶ月
	Hono	9ヶ月
DB	MySQL	1年10ヶ月
	PostgreSQL	9ヶ月

## ■開発におけるAI活用

リファクタリングや実装フローが明確なタスクで、生成AI（ClaudeCode／Devin）を活用し開発生産性を向上させました。

ClaudeCodeでマイグレーション/型定義などの定型作業を自動化。カスタムコマンドと手順化で生成精度を改善し、「スキーマ→マイグレーション→型定義」を安定生成できる環境を整備。

Devinは軽微な実装やテストコード生成に使い、依頼中に別タスクを進めることで並行作業を実現し、速度とコストの最適化に貢献しました。

さらに、AI活用ノウハウを（Devinセッション/Knowledge等）として整理し、PRでチームへ共有。再現性を担保し、チーム全体の開発効率向上に寄与しました。

## ■自己PR

### 【1】ユーザーファーストな設計判断と本質的な課題解決

データとしての本質的な意味やユーザーにとって本当に必要な情報を常に問い合わせ、UI都合に引きずられない設計を実現してきました。

求人プロパティの整理では、FigJamで媒体ごとの違いを可視化し、「求職者にとって必要か」を判断軸に構造化。勤務体系の再整理では、労働基準法や他媒体の実例を徹底調査し、曖昧な用語を明確化しました。

表面的な要件対応ではなく、本質的な価値を見極める姿勢を貫いています。

## 【2】意思決定の質を高める言語化と透明性の向上

議論が停滞した際には、問題の背景・選択肢・判断軸・理由を整理し、判断プロセスを言語化して共有してきました。

労働時間制度のDB設計では、法的要件を整理しハドルを設定、社労士を巻き込んだ意思決定を実現。

DB設計の不確実論点では、付箋で疑問を可視化し「個人の悩み」を「チームの論点」に変換しました。

自分の思考を隠さず、オープンにすることで、チーム全体の意思決定の質を高めています。

## 【3】チーム全体の生産性向上と開発体験改善

個人の効率よりもチーム全体の流れを優先してきました。

エラーハンドリングの統一化では、複数技術を検証し実用性を優先した判断で、チーム全体が迷わず開発できる体制を構築。

PRの切り分けとDevin活用により、実装効率とレビュー品質を両立させました。

影響範囲の大きい共通基盤を率先して担うことで、他メンバーがユーザー価値に直結する開発に注力できる環境を整えています。

## 【4】技術的課題解決とメンバーの成長支援

完璧さよりも実用性を優先し、チーム全体が前進できる解決策を選択してきました。

DB設計の包括的レビューでは、専門用語を避け誰でも参加できる場を設計。

普段DBに触れないメンバーも積極的に議論に参加し、チーム全体のDB理解度が向上しました。

答えを教えるのではなく、一緒に考えることで自律的な成長を促進し、属人化を防ぐ文化を醸成しています。

## 【5】不確実性の管理と変化への適応力

不確実な状況でも、可視化と構造化により前進してきました。

DB設計の不確実論点では、疑問を言語化して可視化し、オープンな議論を通じて設計方針をシンプルに収束。

求人プロパティの整理では、完璧な手順がない中でも、まず手を動かして可視化し、チームで同じ材料を見ながら議論することで前進しました。

変化を歓迎し、柔軟に方針を見直す姿勢を持っています。

## ■ 今後のキャリアビジョン

Tech Leadとして、サービス開発を主導できる人材を目指しています。

技術的な専門性を深めつつ、事業に必要な知見を積極的に学び、チームを牽引してサービスを成功へと導く力を身につけていきたいと考えています。

関係者と円滑にコミュニケーションを取り、チームの力を最大限に引き出して目標達成に貢献できる人材として、リーダーシップを發揮し、プロジェクトを成功に導きたいと考えています。

技術だけでなくビジネスの視点も持ち合わせ、プロダクトの成功に貢献できる人材として、ユーザーファーストな視点を持ちつつ、事業の成長に貢献できる技術的判断を下せる力を磨いていきます。

## ■ アカウント

GitHub: nikawa2161

Speaker Deck: nikawa2161

以上